

令和5年度採材検討会を開催しました

令和5年7月25日(火)、秋田森林管理署湯沢支署「令和5年度採材検討会」を開催しました。

採材検討会とは、管内の事業体ならびに県・市町村担当者等が一同に会し、「丸太をどのように切れば生産性の向上に繋がり、高値で販売することができるか？」をそれぞれの立場から検討し議論していくものです。湯沢支署ではコロナの影響もあり3年ぶりの開催となりました。



支署長による挨拶



多くの方に参加いただきました

支署長の挨拶の後、最近の木材市場動向について仙北東森林組合ならびに協和木材(株)よりお話をいただきました。合板材やチップ材の価格状況、国産材に期待されていることその他、今後の市況の見通しについてお話があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



仙北東森林組合から
市況動向の解説



協和木材(株)から
集成材用原木の品質について解説

今回、北日本索道(株)にご協力いただき、スギ丸太3本を用意し、グループ毎に分かれ採材方法を検討しました。用途が広く、他の寸法よりも高値で販売される傾向のある4mの中目材(径級18~28cm)をいかにして確保していくかがポイントです。

「節を避けるためにここは2mで採材し、残りの真っすぐな部分で4mを採材しよう。」「この品質であれば合板材としてもいけるのではないか。」等、様々な意見が寄せられました。その後、各グループの代表者が採材意図の説明を行い、議論を深めました。

検討会の最後に東北森林管理局資源活用課から講評を行い、時期に見合った採材の検討や運搬コストに優れる4m採材のメリット、バイオマス発電向けチップになる場合の材積の変化に伴う影響などについて解説がありました。



曲がりや節を考慮しながら採材の検討を行いました。

検討会において出された採材のポイント

- ・ 材の曲がりを見ながらどのような長さで採材すると有利になるか見極めることが大事。
- ・ 4mで採材すれば一般材向けその他、合板向け、集成材向けに振り分けることができる。加えて、輸送コスト削減にもつながる。
- ・ 採材に当たっては節の大きさや位置にも注意。大きな節はマイナス要因。
- ・ 同程度の品質であっても原木の供給状況によって評価が変わるため、採材する上では市況動向の見極めが重要。

また、検討会終了後、北日本索道(株)にご協力いただき、ロングリーチ伐倒機を用いたデモンストレーションを行いました。



12mほどアームが伸びます

1日 500 本の伐倒も可能

ロングリーチ伐倒機は、アームを延長することで12m離れた材を掴むことができます。そのため、人力に比べ作業効率が約3倍見込めること、集材作業だけでなく桎積にも利用できることを説明いただきました。

伐倒のデモンストレーションでは、オペレーターが慣れた操作でスギの木を伐倒し、その早さに参加者から感嘆の声が上がりました。「どれぐらいの径級まで対応できるのか。」「切り方はどのようにしているのか。」など多くの質問が寄せられ、生産性向上に関して参加者の高い関心が窺えました。

本イベントは多くの関係者にご協力いただき開催することができました。この場をお借りし御礼申し上げます。また、県・市町村担当者や様々な立場の事業者と意見交換できる場は大変貴重であり、非常に有意義な検討会となりました。

湯沢支署では今後も各関係機関と連携を深め、国民の財産である国有林材の有利販売に努めてまいります。